漢文の訓読

漢文を日本語の規則に従って読むことを**訓読**という。漢字だけで書かれた原文を**白文**といい、これに**訓点**という訓読のための文字や記号を加えたものを**訓読文**という。

〈白文〉我読書　→　〈訓読文〉我　読ムレ書ヲ。

主な訓点には次のようなものがある。

●**送り仮名**…漢字の右下に、カタカナで送り仮名を書く。訓読では、「て・に・を・は」といった助詞や、助動詞なども補う。

（例）楚人ニ　有リ

●**返り点**…漢文を日本語の語順で読むため、漢字の左下に補う。

・**レ点**……下から上に一字返って読むことを表す。

（例）[2]レ[1]　誉メレ之ヲ曰ハク、

・**一・二点**…下から上に二字以上返って読むことを表す。

（例）[3]二[1][2]一　莫キ二能ク陥スモノ一也ト

●**句読点**……語句や文の切れ目を表すために補う。

（例）吾ガ盾之堅キコト、莫キ二能ク陥スモノ一也ト。

訓読文を、漢字仮名交じり文に書き改めたものを**書き下し文**という。

〈訓読文〉我　読ムレ書ヲ。　→　〈書き下し文〉我書を読む。

訓読文を書き下し文に直すときは、次のような決まりがある。

・送り仮名はひらがなに改める。

（例）楚人ニ　→　楚人に

・返り点が示す順に従って書き改める。

（例）誉メレ之ヲ曰ハク、　→　之を誉めて曰はく、

・漢字は原則そのままだが、「之(の)」「也(なり)」などの助詞・助動詞はひらがなに改める。

（例）吾ガ盾之堅キコト、　→　吾が盾の堅きこと、

〈白文〉　誉之曰吾盾之堅莫能陥也

〈訓読文〉　誉(ほ)メレ之(これ)ヲ曰(い)ハク、「吾(わ)ガ盾(たて)之(の)堅(かた)キコト、莫(な)キ二能(よ)ク陥(とほ)スモノ一也(なり)ト。」

〈書き下し文〉　之を誉めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。

確認テスト

(1) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□ □レ □ □

(2) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□レ □ □レ □

(3) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□ □レ □レ □

(4) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□ □二 □ □一

(5) 返り点に従って、次の□に読む順の数字を書きなさい。

□レ □二 □ □一

(6) 次の数字の順に従って□を読むように、返り点を書き入れなさい。

2 1 5 4 3 6

(7) 次の数字の順に従って□を読むように、返り点を書き入れなさい。

4 1 2 3 5 6

(8) 次の訓読文を書き下し文に直しなさい。ただし「弗」「也」は助動詞に当たる言葉である。

其（そノ）人、弗（ざル）レ能（あたハ）レ応（フルコト）也（なり）。

〔　　　　〕。